



# 長久手市棒の手保存会

取  
材  
報  
告

**B** チーム ▶ テーマ: 交流・子供

長久手市棒の手保存会  
副会長浅井智志氏の協力により  
岩作寺山 豊龍院にて

私たち B チームは交流・子供のテーマをもとに、長久手市棒の手保存会さんが町の人々とどのように関わることで、どんな幸せを感じ、何を伝えて活動してみえるのか、副会長浅井智志さんの協力によりメンバーの皆さんにお話を伺いました！



棒の手の流派には県指定の主な物で15流派ほどある。  
市で保存伝承されているのは  
『起倒流』『見当流』『鷹羽検藤流』『藤牧検藤流』の四流派。

## 棒の手ってなに？

棒の手は愛知県の  
代表的な民俗芸能

「長久手の棒の手」は  
昭和31年6月21日に県の  
**無形民俗文化財**  
に指定されています。

## 棒の手の起源は？

棒の手の起源ははっきりした資料がなく定説がない。一説には本郷城主(現在の日進市内)丹羽若狭守氏清が、城下の農民に武術を習得させたのが始まりで、丹羽氏の勢力が増大するのに従い各地に広まったとする説や、巻物をはじめ棒の手の内容に関する記録には修験道などの影響が濃いところから、修験道に起源を求めた説もある。

## 棒の手の歴史は？

五穀豊穡を祈り、作物の収穫に感謝するお祭りとして、1523年に初めて日進市のオマント警固祭の時、棒の手も白山宮に奉納した。

1653年辺りから、猿投の神社にそれぞれの地区の棒の手奉納を行うようになった。

1830年代には、各地域で警固祭が盛んになった。



## 棒の手の伝承

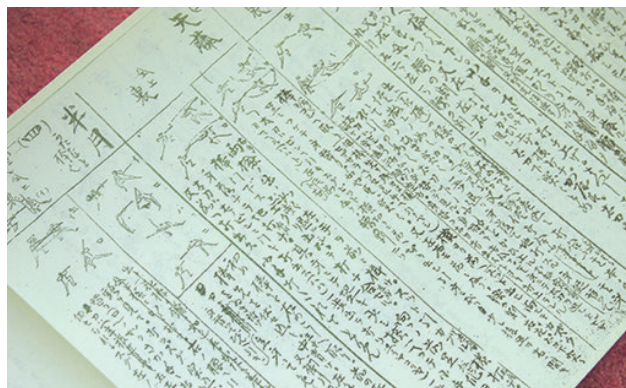
### どのように 伝えられてきたの？

かつての棒の手は青年組織により受け継がれてきた。男子は小学校卒業から16歳頃までの一定の年齢に達すると、青年会などの組織に入り、棒の手の練習を始めた。

中でも巻物の伝授を受けようとする者は、師匠の元へ弟子入りの誓文血判を出して弟子となった。

そして、ツキロクサイ(月六斎)といって、月に6度練習日を決めて通い、3年あるいは6年目にして初めて免許目録を授与された。

巻物の受け継ぎは師匠の家で厳粛に行われた。深夜、師匠の家に声などもれないように目張りをし、巻物を授けたのち、口伝で奥義を伝えたとされる。

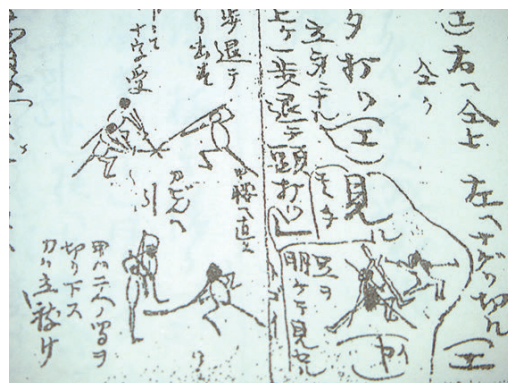


各流派の起源や現存する巻物等は江戸時代後半の物が多く、奥伝、極意は秘伝とされており師匠から弟子へ極秘に伝授されることも多く、師匠からそれぞれ時代を経て受け継ぐ中、型の内容も少しずつ末端の弟子に行けば行くほど師匠の流儀によって、それぞれ変化してきたようです。奥伝、系譜など正確な事は不明です。

演技の際、身につける



**かざきり**  
刺繍で龍の姿を彩られ、家それぞれの家紋が施されています



## 棒の手の活動

### どのように活動しているの？

棒の手は戦中戦後に一時衰退したが、昭和30年頃から各地で保存会が組織され氏子祭礼、馬の塔などの行事とともに受け継がれてきた。

奉納時の  
お供え物





奉納時の風景



## 棒の手の組織 組織として地域への働きかけは？

事前に棒の手の縁起、歴史について説明をする。各地区で様々な流派があり、個別に伝承し、それぞれの分会に師匠という免許皆伝の指導者がみえ、子供たちの演技を指導している。子供の時から参加して現在も継続し師匠になっている人もいる。

まず棒の手を知ってもらうため授業の一貫として、長久手市内の小学校で保存会として啓蒙活動を続けている。

組織として明確な意思を持って対応し、伝承に向け自信を持って活動している。それに呼応して地域住民も積極的に参加協力している。

現在、北小、西小に棒の手クラブができている。その他の小学校でも啓蒙と同時に、継続的な部活動として活動を始めている。今後子供たちがこの機会を捉えて、棒の手の存在を知り、参加するきっかけにしたい。



## 棒の手の保存会

### 活動に対する思い...

地域での自分の居場所を感じる事により自分を知り価値を見いだせる。

地域の伝承文化を継承するものとして、誇り、立つ瀬を感じる。



将来の担い手である地域の子供達の育成に関わる事で地域に貢献している。

住まいの大きなマンション化により、近所づきあいも無くなりつつある地域で繋がりができ棒の手の活動以外でも交流がもてる。

幅広い世代で活動するので、世代間を超えた縦の繋がりができる。



# 棒の手 って、とてもかっこいい！

2015/11/1 熱田神宮(本殿前)にて棒の手奉納の様子



七五三の参拝者もたくさんいました。

本殿前まで行進です。



演技と言えども真剣勝負

かけ声かけてエー!

本殿前でぐるぐる列を成します。



## 子供達に突撃インタビュー！

何年経験があるの？

1年から6年くらい、年齢によってちがってくるよ。

参加のきっかけは？

お父さんやお兄ちゃんがやっていたから。

強くなりたかったから。かっこいいから。

練習は難しい？ 簡単！

他にスポーツはしているの？

野球、サッカー、水泳、などスポーツクラブに行っている

やってよかったことは？

おひねりが貰える。

忍耐力がついた。

棒の手の仲間といつも一緒に行動できる。

取材を終えたいこと

今回、伝統文化に触れる事により、地域の歴史を知る・地元との関わり方を学ぶ・仲間作り・子弟関係

の礼儀の大切さ・親子兄弟の絆・他の地域への結びつき礼儀など人が生きる上で重要な項目がいくつも浮き上がりました。改めて、棒の手に携わる方々は生き甲斐ができ、人の為にも自分の為にもなる活動に幸せを感じとってみえるようでした。